

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 10月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473100760		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム夕霧の家		
所在地	広島県呉市音戸町畑3丁目20番36号 (電話) 0823-56-1202		
自己評価作成日	平成25年9月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3473100760-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年10月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で落ち着いた雰囲気を大切にしており、地域と共に歩むということを目指し、入居者様が楽しみながら、楽しみを持ち、持っている力を発揮できるように支援しております。地域のお祭りや行事などに積極的に参加し、又はボランティアの受け入れも企画することにより、地域交流の促進を図っており、入居者様がその方らしい生活が送れるように、職員一同、日々取り組んでおります。また、母体である医療法人を中心に、関連の各施設と連携をとり、訪問看護立ち上げ医療介護サービスが提供できるように確立しており、入居者様やご家族に対し、切れ目の無いサービスが提供できるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1 当該事業所は呉市島嶼部「倉橋島」北西部にあつて、訪問・面会などのアクセスは公共交通機関の便がやや不便で自家用車利用が適している。施設は国道487号線に面し、商店やスーパーなどにも近く、買い物や外出支援などに便が良い。また、同一医療法人の他の施設とも隣接しているため地域との交流や馴染みの利用者同士の交流にも便が良く相互に好作用を与えている。

2 同一法人関連事業所が多いため職員教育や研修、マニュアルの整備などが計画的で効率よく管理され、また介護・医療との連携も効果的で利用者や家族に安心感ある支援を実施している。

3 職員は管理者の指導の下、利用者の能力のうち「できること・得意なこと」を大切に、それを日常的に発展させて、利用者が「その人らしく最後まで楽しく暮らすことができるような支援」に努め、「思いやり」と「気づき」を理念として事業所一体となった支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	介護理念のひとつとして掲げ、理念に沿って日々取り組んでいる。管理者と職員共に気付き、思いやる心、やさしい言葉使いの理念を共有し、実践が理念に基づいたものとなるように、日常的に取り組んでいる。	法人全体としての理念の他に、事業所として「思いやり」「気づき」を独自の理念として定め職員全員で共有している。職員は利用者の支援に当たり常に理念の実践を心掛け、「気づきノート」や「申し継ぎ事項」などに記録し、利用者の思いや意向を職員全員で共有できるように実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事などに進んで参加し、近所を散歩したり、多くの方々と交流が深まるように努めている。隣接する小規模多機能型居宅介護施設やデイサービスの利用者との交流を行ったり、ボランティアの慰問があるときは、交流を行っている。	同一地区の同一法人施設として隣接施設とともに自治会に加入するなど、事業所として地域の一員となる努力はしているが、地域出身の入居者が少ないため、やや付き合いが薄い面がある。しかしながら隣接事業所と一体となって地域の行事やお祭りなどを積極的に支援したりしつつ、徐々に事業所としての地域との繋がりを確立しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の奉仕活動や、行事などにも積極的に参加し、お手伝いをしている。運営推進会議や事業所の行事などを通じ、入居者と接していただける機会を持つことで、認知症に対する地域の皆様の理解や、支援していただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の皆様やご家族に対し、実施した事業サービスを報告したり、認知症についての意見交換、又行事などに対して積極的に意見を聞き、サービスの向上に努めている。今回運営推進会議では、地域の方に奥の内小学校の校庭を利用されればイスを用意しますと、思いもよらない言葉をいただきました。	運営推進会議は隣接する同一法人事業所と合同で実施されており、事業所の現状報告や意見交換、地域との交流状況及び各種行事やイベントの予定と実績など活発な話し合いが行われている。また参加者も地域の代表関係者の他、お巡りさんや商店主など各方面の方々が出席され様々な意見を聞きサービスに反映させるよう努力が払われている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	呉市の同業事業者が開催する勉強会に、呉市の職員の方に来ていただき、助言、指導をしていただき、サービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所が島嶼部にあるため市職員と定期的に接する機会は少ないが、同業事業者の勉強会などに市職員を招き、機会を活用して助言や指導を頂くなど積極的に連携の強化に努めている。また、関係書類作成や報告書作成などの機会を利用して連絡を密にするなど協力関係の維持・強化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会に参加したり勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要に応じて、専門職の助言を受けながら、拘束をしない支援を、日常的に行っている。	身体拘束をしないケアについては、法人内で行う研修会や、勉強会などの定期的な職員教育により知識として正しく理解されており、職員全員で共有し日常の支援業務で実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加したり、ミーティングなどで報告したり、勉強会を行い、職員一同、細心の注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、勉強会や話し合いを持ち、活かせるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、入居者やご家族に納得していただけるように、十分に説明を行い、理解をしていただけるように、努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に意見を聞き、運営に反映させている。言い難いことがあれば、文章で書いていただけるようにもしている。	利用者や家族の運営に関する意見や要望は、主として面会時や運営推進会議など直接意見を聴取できる機会に伺っているが、電話や手紙・意見箱への投稿などあらゆる機会を活用し聴取できるよう配慮がなされている。最近も事業所独自で利用者に対し外出や入浴・食事・職員の対応などに関しアンケートを取り運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎週ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。管理者を通じ、代表者へ随時報告され、意思決定が行われている。</p>	<p>管理者は職員が意見を出しやすく、コミュニケーションが取りやすい雰囲気の醸成に配慮し、日常的に業務の中から職員の意見や提案を聞き、ミーティングなどで全員の意見を検討・共有して運営に反映・改善へとつないでいる。反映・改善の実績として職員の提案で夜勤の交代時間の変更を実現させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行ったり、疲労やストレスの要因についても気を配り、心身を休めることができるように、休憩場所や時間を設けている。職員同士の人間関係を把握したり、職場環境の向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員は、研修会などに積極的に参加できる環境を作っている。研修後は、研修報告書を作成し、ミーティングなどで報告している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>行事や研修会などに参加し、情報交換を行っている。サービスの質の向上という共通の目的のために、意見交換を行い、質の高いサービスが、提供できるように努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人のニーズを十分に聞き、本人の思いや心身の状態に向き合い、職員が本人の信頼を受け入れられるような、関係作りにも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始までに本人の生活歴や経験を開き、どのようにすることが、本人や家族にとって一番良いのかを、考えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接に十分時間を費やし、需要と供給、支持的方法を考えている。本人や家族の思いを十分考慮する。できる限り柔軟に対応していくように努めている。緊急性が高いと思われる場合は、他の事業所への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が本人に寄り添い、その思いや希望を受け止め食器洗い、洗濯物たたみ、書き物、掃除等できる事をお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の状況報告、夕霧便り、面会時に本人の様子をお伝えしている。ご家族が来られた時には、一緒に飲み物を飲んでいただいたり、外泊、外出をしていただくなど、よりよい関係が保たれるように、支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事などに参加したり、夏祭りを開催し、屋台を出したり、ご家族を招待したり、友人、知人の方にも参加していただくなどの支援をしている。	施設の裏が、馴染みの瀬戸内海に面しており、見慣れた風景の中に生活しているため違和感がない。事業所としては地域の行事やお祭りに積極的に参加したり、法人主催の行事や夏祭りに家族・友人知人を招待し、馴染みの方々と関係が途切れないよう働きかけるほか、日常的には隣接する同一法人施設利用者との交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い利用者同士の、席を近くにするなど、関わり合いを持つことができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院された場合には、お見舞いに伺ったり、電話による連絡などで、これまでの関係を大切にしている。相談窓口を作り、その後の支援に応じる体制を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意見や資料を検討しながら、本人に合ったライフスタイルを検討している。日々の行動や表情から、思いや意思を理解できるように心がけている。	利用者個々の入居時から今日までの記録や、日常的な会話を通じて思いや意向の把握に努め、気づきノートや申し継ぎ事項、ミーティング等で職員相互に利用者の思いや意向を共有し支援に当たっている。本人の意向等の把握が困難な場合は、より注意深い見守りの継続や家族との相談などにより本人本位に検討するよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始までの、生活歴などを十分に理解し、今までとあまり変わらない生活ができるように、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェック、睡眠、排泄の有無を確認し、その日の体調を観て、一日の過ごし方を検討している。できることや、やりたいことができるように、できないことはサポートすることで、少しずつでもできるように、ひとりひとりの状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の思いや意見を聞き、職員全員と関係者で、意見交換や、モニタリング、カンファレンスなどを定期的に行い、介護計画を作成している。</p>	<p>日常的な気づきや見守りにより利用者本人の現状や変化を把握し、職員相互に思いを共有している。モニタリングやカンファレンス時など定期的に医師・看護師・職員関係者全員の意見交換を行いそれぞれの意見やアイデアを現状に反映させるよう介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の記録を記入し、申し送りが入居者の状態を確認している。重要事項や気付きはすべて記入し、職員間で情報を共有しながら、ケアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や、ご家族の要望に応じた介護計画を作り、柔軟な対応をしている。同じ敷地内にある、デイサービスや小規模多機能の利用者との交流など、その時の要望に応じている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>入居者が、地域で安心して暮らしていけるように、地域の皆様と連絡をとりながら、必要に応じてご意見を聞き、支援へとつなげている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>健康面で気になることは、ご家族に随時報告し、本人やご家族の要望に応じた、かかりつけ医と連携し、支援している。</p>	<p>入居時の説明により、かかりつけ医の選定については家族・利用者の要望を受けているが、母体である医療法人社団の林医院をかかりつけ医に選定することに全入居者の同意をいただいている。また、ホーム看護師による24時間対応の体制と合わせて、家族も安心して適切な支援が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	健康面や医療面について、24時間365日、いつでも相談できるようにしており、状況の変化に応じた支援をしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入居者が入院したときには、本人の支援の方法に関する情報を、ご家族と病院関係者に提供し、早期の退院につながるように、退院後の計画を本人、ご家族や職員で話し合い、支援している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に、本人、ご家族、主治医により、終末期における対応を話し合い、明確にしている。日頃から、協力医の指導を受け、状態の報告や相談をして、職員全員で方針を共有した、ケアの実践に努めている。	重度化した場合や終末期のあり方・対応などについては、入居時に本人・家族・主治医や関係者を交え、「看取り指針」をもとに話し合い、事業所でできることなど相互に方針の概要を共有している。また状況の変化により随時話し合いを持ち、地域の関係者や協力医とも連携を密にするなど支援の充実に努めている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	医師、看護師の指導のもと、職員全員が対応できるように、定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身につけるように、マニュアルを基に取り組んでいる。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	マニュアルを作成し、入居者と職員が定期的に防災訓練や避難訓練などを実施し、連絡体制や、避難路や避難の手順などを確認している。また、運営推進会議などを通じて、協力を呼びかけている。	マニュアルに基づき定期的に防災訓練や避難訓練などを実施し、隣接する同一法人施設との連携した協力体制なども確立している。また、隣接した民家からも緊急時の協力の申し出もあるが、地域としての協力体制が未整備なので運営推進会議などを通じて地域全般の支援について理解が得られるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、入居者に対して敬意を払い、接するように心がけている。支援の必要なときには、本人の気持ちを考え、さりげないケア、羞恥心に配慮し、本人の尊厳を尊重したケアをこころがけている。個人情報についても、外部に漏れないように職員が徹底している。	「思いやり」と「気付き」の理念を実践しつつ、日頃からの利用者との人間関係を大切に「人生における先輩」としての尊敬の念を持って接する対応がそのまま人格の尊重に繋がり、誇りやプライバシーを損ねない支援につながっている。声を荒げたり、もめたり、すねたりする様子もなく穏やかな支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを大事にすることで、自己決定の支援へとつなげている。意志表示が困難な場合でも、表情や反応から思いを理解し、希望や願いを意図的に引き出せるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いに沿った生活ができるように、一人ひとりに話を聞きながら、支援するようにしている。入居者の生活のリズムを尊重し、ゆったりとした環境で、本人の意向や要望を聞きながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の個性や、希望、好みを尊重し、季節感や清潔感のある、その人らしいおしゃれができるように、ご家族の理解をいただきながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は、入居者と同じテーブルと一緒に食事をしており、入居者ができる範囲内で、調理の準備をお手伝いしていただいたり、食後には、テーブルを拭いたり、後片付けを、お手伝いしていただいたりしている。	好みの把握は、日常的な会話や支援の中などから個々に概要を把握し、献立に反映させ日々の調理に活かすよう配慮している。かなり高齢化が進んでいるが食事の準備段階での食材の洗いや皮むき、食後のテーブル拭きや片付けなどを職員と一緒に行うなどできることをお手伝いしてもらい楽しい食事となるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	職員が，一緒に食事することで，一人ひとり特徴を理解し，支援している。食事の摂取量は毎回，確認している。摂取量が少ないときには，医師や看護師に相談したり，食事の形態などを，考えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	うがい薬を使用して，うがいの支援や歯みがきや，義歯の洗浄を行っており，声かけや，見守りを合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの身体の状態に合わせた対応を行なっている。できることは見守りをして，できないことは，支援できるようにして，自尊心を傷つけないように支援を行っている。	排泄の失敗や，オムツの使用を減らすため職員は日々の支援や介護の中で利用者個々の身体能力や排泄リズムを把握している。本人でできることは見守り，でき難いことは介助するなど自尊心を傷つけないように本人の自立を促す支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日，排便の確認をして，便秘気味の入居者には，水分補給や体を動かしたり，食事などにも気を配るようにしている。それでも排便のない人には，内服薬などを服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	原則には決めているが，入居者の希望に応じて対応している。入浴の時間も余裕を持っており，楽しんでいただけるようにしている。	入浴は原則的には2回/週と決められているが，入居者の希望や体調などに応じて対応するとともに，入浴時間やシャワーや清拭・足浴などの方法も選択の自由を持たせるなど無理強いせず，楽しんでもらえる支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりの体調を考慮し、ゆったりと休憩や睡眠をとれるように、支援している。常に清潔を心がけ、安らぐことができる場所であるように、努めている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	入居者に処方されている薬については、医師の指示に従い、職員は入居者の内服薬を確認できるようにノートを作成し、管理している。また、服用を必ず確認している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や能力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	本人の趣味や余暇の活動を生活歴やコミュニケーションをとることで、把握するようにしている。本人に合った役割を見つけ、無理をすることなく出番を多く作り、張り合いが持てるように支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	日頃から、入居者の希望を把握し理解し、買い物や散歩など、外出を心がけている。併設するデイサービスや小規模多機能へ行くなど、施設の中だけで過ごすことが少なくなるように、支援している。	入居者の希望により散歩や隣接施設利用者との交流など極力利用者が引きこもらないで外に出るよう配慮した支援に努めている。また時には遠出したり、花見や紅葉狩りなどドライブや外食を兼ねた外出を計画して、生活の中の楽しみとしてもらっている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	原則として、現金は所持しないようお願いしているが、入居者の力量を判断しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮しながら、希望に応じて、電話や手紙を出せるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を心がけ、心地良い気持ちになっただけのようにしている。季節に合った花を飾ったり、貼り絵やぬり絵によるカレンダーを作ったりして、季節を感じられるようにしている。	共用空間は清掃が行き届き清潔に保たれている。リビングは二面が瀬戸内海に面して明るく、四季の移り変わりを直接楽しみながらくつろげる空間となっており、ベランダの外には小庭園もあり園芸等も楽しめる空間もある。刺激的な光や音もなく住み慣れた環境の中にあって居心地よい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士が自由に過ごせるように、ソファや椅子を置き、家庭的にくつろげる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や、ご家族の写真などを持参していただき、本人が大切にしてきた物に囲まれ、本人らしい居心地の良い居室作りを行っている。	居室には備品としてベッド・カーテン・エアコン・クローゼットがあり、その他家具類や装飾品・絵画や写真など利用者本人の好みにより使い慣れたなじみのものを自由に持ち込み本人らしい居心地の良い居室を作ることが認められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりの身体の状態に合わせて、物の配置を考えている。入居者の状態が変化したときは、話し合いをして、対策を考えるなどしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム夕霧の家

作成日 平成25年11月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の介護力低下傾向にある	日々利用者が変化するのその時に応じた対応等できるように介護力の向上に努める	職員全員で勉強会やミーティング等を行う	
2	18	利用者に対して笑顔がない	利用者に対して常に笑顔で接する事が出来る	職員同士で話し合い等を行い余裕の持った介護ができるようにする	
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。